

めざせ！自立都市・龍ヶ崎市

「これからの公共のあり方」

龍ヶ崎市の「新しい公共」をみんなで考えよう。

龍ヶ崎市議会議員 大竹のぼる



龍ヶ崎市民のみなさん、こんにちは。「大竹のぼる市政報告 No.4」をお届けさせていただきます。

私は、自立都市・龍ヶ崎市をめざして、「議会を変えよう！われわれ市民も変わろう！」「そして、市政のあり方を根本的に変えよう」と訴えてきました。

そのためには「新しい公共」という考えのもとに、市民のみなさんに積極的に発言・参加していただくことが必要です。元気な龍ヶ崎にいきましょう。

●龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針

一次世代へ適切なカタチで公共施設を引き継ぐために皆さん、ご存知ですか。龍ヶ崎市は、昨年11月15日付で「龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針」を打ち出しました。

高度経済成長期に一齐に整備された公共施設（ハコモノ）やインフラは老朽化が進み、修繕や建て替えの時期が来ており、「公共施設の更新問題」といわれています。この「基本方針」は、龍ヶ崎市も「更新問題」に直面しているのです。84の公共施設を再編成しようというものです。84の公共施設とは、市役所庁舎、文化会館、小中学校（計19）、コミュニティセンター（13）、総合福祉センター、学校給食センター、たつのこアリーナ、などなどです。



●40年間に約664億円かかる

今ある公共施設を維持するためには、1年あたり16.6億円かかり、今後40年間に約664億円かかるそうです。

また、今まで通り年10.9億円の費用をかけることができたとしても、40年後に維持できる公共施設は66パーセント程度だとのこと。

●公共施設の3分の1は廃止！？

上記のように、いまのままでは、40年後に公共施設の3分の1は廃止、または、すべての公共施設の管理運営費用を3分の1カットしなければならないと説明されています。

だから、公共施設を再編成しなければならないというわけですが、いまのところ、なにをどうしようという具体的な「方針」案は示されていません。

道路、橋、下水道など、インフラの将来更新費用を加えると1,629億円にも上ります。

ゴミ処理施設のクリーンプラザ龍の長寿命化費用約56億円も別になっています。



私がかつて危惧していた通りではありませんか。「危うし、龍ヶ崎市公共」です。だから、私は昨年、12月定例会にて「公共施設更新とこれからの公共の姿のあり方」について一般質問しました。

●「新しい公共」の考え方

この「新しい公共」の理念とはどういうものでしょうか。新しい公共とは、『人を支えるという役割を、「官」といわれる人たちだけが担うのではなく、教育や子育て、……それを社会全体として応援しようという新しい価値観』といわれています。

端的にいうと、公共サービスを、税金だけでは賅いきれなくなっているのです。みんなで支えようということです。

確かに龍ヶ崎市の財政も非常に厳しく、「これまでの公共」ではやっていけないのは事実です。

しかし、協働と称して従来の公共サービスを市民に負担させていいのですか。

フォーラム開催のお知らせ

第3回 龍ヶ崎市を語ろう

議題：「これからの公共のあり方」を考えよう

—公共施設の3分の1が廃止になっているのか

日時：2月23日(土) 午後1時30分

場所：市民活動センター（63-0030）

（元馴馬小学校）

●「真に必要な公共」とは何か

増税か、減税はできないか。受益者負担か、民間活用か。サービスの確保か、サービスの徹底的見直しか。

「今までの公共」を

- ① すべて税金でまかなう公共
- ② 一部民間のノウハウを導入する公共
- ③ 完全な民間ベースの公共

に分類し、財政を考慮しながら「これからの公共」のルールを作らなければなりません。

3つに分類するに当たっては、従来の公共サービスが多数の市民に必要な公共サービスなのか、市民のコンセンサスを得なければなりません。

（ここで、1つの例を挙げますと、ひたち野うしく小学校のプールやアスレチックの利用方法は、小学生と市民が一体になって活用しています）。

●学校給食センターを大竹のぼる流で考えると

子供たちの各家庭の献立やアレルギー体質の子や食の細かい子、太い子などのデータを把握し、地産地消や地産他消（漁業や山間都市との提携）による安心・安全・ローコスト化を図るならば、コミュニティ食堂ができる気がします。食べ残しはなくなるし、食器は自分で洗いましょう。楽しくなりますよ。

バイキング方式だって考えられると思いますよ。

●新しい公共施設の運営方法を、大胆に！

PFIという手法があります。PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは「公共が直接施設を整備せず、民間資金を利用して民間に施設整備と公共サービスの提供をゆだねる手法」です。

龍ヶ崎市でも取り入れようとしています。積極的に検討してみる必要はあるでしょう。

●「今の公共」に無駄はないか、適切なのか

もう一度繰り返します。市から提案された「基本方針」では、公共施設を維持するには664億円もかかってしまうから、公共施設を3割削減するといっています。施設の統廃合もするといっています。

これは市民にとって非常に身近な問題です。真剣に考えなければなりません。

前回のフォーラムでは、主テーマとして「自治基本条例について」を飯田市の例を取り上げて話し合いましたが、これからも継続して議論していきます。

今回のテーマは、「これからの公共のあり方を考えよう」としました。

●今がチャンスだ！

この「大竹のぼる市政報告 No.4」では、「龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針」を取り上げて、龍ヶ崎市のいまとこれからを考えてみました。皆さんはどう思われますか。

集まって、議論いたしましょう。

大竹のぼる 〒301-0837 龍ヶ崎市根町781-2

Tel・Fax： 0297-62-8383

携帯電話： 090-2941-6881

eメール： noboru-o@star.ocn.ne.jp

大竹のぼるオフィシャルWebサイト

<http://www.ryu-otake.jp>

大竹のぼる後援会

会長 田村純男 〒301-0018 龍ヶ崎市米町8829-2

FAX0297-62-9372